

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 月-II	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(倫理学の基礎) Humanity and Culture (Fundamentals of Ethics)			
対象年次 1・2 年次	講義形態	講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類		人文・社会科学	
担当教員:ファーデン・ゲアハルト		/Eメールアドレス: g-faden@net.nagasaki-u.ac.jp		
/研究室:環境科学部一階		/TEL: 095-819-2774		
/オフィスアワー:講義の前後				
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい</p> <p>「価値観とは主観的だ、倫理学は一般妥当性を欠けている」という意見がよくあります。また、「僕はどのように道徳的な規準に従わないといけないか。僕はどのように倫理的に行動しなきゃいけないか」という質問もよくあります。今回は、西洋の倫理学に基づいてそのような意見と質問に対して考察します。</p> <p>授業方法</p> <p>毎回、プリント資料を配布します。それに基づいて倫理学の基礎問題を学習します。</p> <p>授業到達目標</p> <p>学生が善悪の絶対性、快楽主義、価値感情と価値序列、心情倫理と責任倫理の違いなどについて論証できることを狙っています。</p>				
<p>授業内容 (概要)</p> <p>倫理学の主要問題を論じます。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 善悪の相対主義とその批判。価値は絶対的なものであるかどうかについて</p> <p>第3回 価値感情の働き。「心情の秩序」(Pascal)という概念について</p> <p>第4回 快楽主義 (Epikuros) とその批判。快楽が倫理の最高原理であるかどうかについて</p> <p>第5回~第6回 プラトンの倫理学</p> <p>第7回 カントの倫理学</p> <p>第8回 生物学に基づく倫理 (Lorenz, Dawkins) とその批判。自己保存が倫理の最高原理であるかどうかについて</p> <p>第9回 良心は人間の内にある神の声、それとも教育の所産かについて</p> <p>第10回 情倫理と責任倫理 (Max Weber)</p> <p>第11回 妊娠中絶の賛成か反対</p> <p>第12回 動物保護</p> <p>第13回 自殺、安楽死、尊厳死</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 全授業の総括</p>				
キーワード				
教科書・教材・参考書	R.シュペーマン (Spaemann)、道徳の基礎的諸概念 (東京 1988)。 プリント資料			
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 20%、定期試験 80%。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)				